

WATER MATTERS

水から考える持続可能な未来
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 報告書



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

開催概要	p.2
主催者開会挨拶	p.3
プログラム	p.5
ダイアログの一日	p.6
パネリスト	p.9
参加者データ	p.13
アンケート結果	p.14
主催者	p.15
運営委員会	p.16
パートナー企業等	p.17
広報活動及び報道実績	p.18
制作物	p.20
ノーベル・ウィーク・ダイアログと日本開催の経緯	p.21

当日の様子は以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/nobelprize>



ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 は、若手研究者や産業界を含む広く一般を対象に、国内外のノーベル賞受賞者 7 名を含む 23 名の著名な研究者・有識者に登壇いただき、公開での講演やパネルディスカッション等を通じた科学と社会との対話を実施したものです。学術・科学技術への社会の関心・理解度を高め、科学技術・学術の振興に寄与することを目的としています。当日は、約 400 名の参加者にご来場いただくとともに、インターネットによるライブ中継を行い、世界中の視聴者に議論の様子が配信されました。

(<https://www.youtube.com/nobelprize>)

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル財団の広報を担うノーベル・プライズ・アウトリーチ AB がスウェーデンにおいて 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウム、“Nobel Week Dialogue”（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）を日本で開催するものです。2015 年 3 月に、スウェーデン国外では初めてノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015 として日本において実施されました。その成功を基に、2017、2018、2019 と回を重ね、今回は 5 回目の開催となります。

本ダイアログは、日本学術振興会とノーベル・プライズ・アウトリーチとの密接な協力関係の下、開催されたもので、学術分野における日本の国際的なプレゼンスを高める上で重要な機会となりました。また、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名な研究者・有識者が一堂に会し、社会一般と対話する貴重な機会となり、学術に対する社会の関心・理解度を高めるという目的を達成した画期的な科学コミュニケーション活動となりました。

本報告書は、本ダイアログの概要についてとりまとめたものです。社会一般の皆様には科学技術・学術に対する関心を高めていただくとともに関係者各位に広くお役立ていただければ幸いです。

1. 会議の名称

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2022

2. 主催

独立行政法人日本学術振興会／ノーベル・プライズ・アウトリーチ AB

3. 開催日時

2022 年 10 月 23 日（日）10:00～17:00

4. 開催場所

パシフィコ横浜 会議センター（神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）

5. テーマ

和文名：Water Matters 水から考える持続可能な未来

英文名：Water Matters



杉野 剛

独立行政法人日本学術振興会 理事長

皆様、おはようございます。日本学術振興会理事長の杉野剛です。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 の開催にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

高円宮妃久子殿下、スウェーデン国特命全権大使パールエリック・ヘーグベリ閣下、井出庸生文部科学副大臣、ご列席の皆様、本日は、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 にお集まりいただき、心より御礼申し上げます。

本日の開催にあたりましては、ローラ・スプレヒマン CEO をはじめとするノーベル・プライズ・アウトリーチの皆様からの温かなご理解とご協力を賜りました。また、特別スポンサーのサントリーホールディングス株式会社様をはじめ、多くの企業・団体からの多大なるご支援を賜りました。関係各位の皆様のお力添えに心から感謝申し上げます。

ノーベル・プライズ・ダイアログは、広く一般の方に最新の科学技術・学術への理解を深めてもらうことを目的としており、2015 年から全世界ですでに 14 回開催されています。私はここ日本で 5 回目のノーベル・プライズ・ダイアログを開催できることを誇りに思うとともに、今年のダイアログには 7 名ものノーベル賞受賞者を迎えられたことを大変光栄に思っています。

ご存じのとおり、日本人で初めてノーベル賞を受賞されたのは、湯川秀樹博士です。第二次世界大戦直後の 1949 年にノーベル物理学賞を受賞されました。

当時の昭和天皇は湯川博士の受賞の知らせを聞いて深く感動され、このような短歌を詠まれました。

「賞を得し 湯川博士の いさおしは わが日の本の ほこりとぞ思ふ」

このように、ノーベル賞というものは、素晴らしい夢と希望を私たちの国、そして全世界に与え続けてきてくれたものである

と私は考えております。

ところで、湯川博士の受賞によって素晴らしい夢と希望をもたらされた私の母は、幼い私に湯川博士の伝記を与えてくれました。私は何度も何度もその伝記を読み、そしてついに…物理学者にはなりませんでした。お母さん、ごめんなさい（笑）

しかし私は、いまこうして日本学術振興会の理事長としてノーベル・プライズ・ダイアログを主催しており、そのことを大変嬉しく思っています。そして本日講演をしてくださる 7 名のノーベル賞受賞者もまた、このダイアログを通して日本の若者たちに素晴らしい夢と希望をもたらしてくれると信じております。

さて、本日は「Water Matters 水から考える持続可能な未来」に焦点を当てます。21 名の傑出した有識者の先生方に、いかに水が生命を育むか、そして貴重な資源としての水を守るために私たちに何ができるのかについて議論いただく予定です。一方で、水と自然災害の分かちがたい関連性についてもお話を伺えるでしょう。

日本で暮らしている多くの人々にとって、日常生活で水を利用することは当たり前のように行われています。蛇口をひねれば水を飲むことができます。このような恵まれた環境の中で、水に関するグローバルな知恵と知識をもって、私たちがどのように水にかかると様々な問題に立ち向かい、解決してゆくかを理解するために本日のダイアログは大変有意義なものになると考えています。

本日のダイアログは、きっと、人類の未来社会に向けた貴重な示唆となることでしょう。

それでは、皆さん、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 をお楽しみください。ありがとうございました。

※本稿は、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 当日の開会挨拶を翻訳したものです。



ローラ・ スプレヒマン

ノーベル・プライズ・
アウトリーチ CEO

Photo by A. Mahmoud, Nobel Prize Outreach

おはようございます。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京へようこそ。今回、私たちは、「なぜ水が重要なのか」をダイアログのテーマに掲げました。誰もが知っているように、水は重要です。水がなければ、私たちは生きていけません。地球上のどこであっても、水一液体状の水 — のあるところには、生命が存在しています。どんなところにも、です。このことは、私たちが生命について、そして生命の限界について理解するのに役立ちます。

水は、生命の維持に不可欠なものです。細胞、生物全体、そして生態系全体が、水の存在に依存しています。水は地球上で最も豊富な物質であり、非常に優れた分子です。そのシンプルさにもかかわらず、私たちはいまだに、その数々の神秘を解き明かしきれずにいるのです。

水こそが、私たちの社会の生命線です。水は、私たちにとって最も価値ある資源なのです。しかし、私たちは知っています。人間の活動が水の循環を変化させ続けていることを。私たち人間は川をせき止め、川の流れを弯曲させ、農地の灌漑を行っています。これらの結果、気象の変化がもたらされるのです。今後、さらに極端な事象がいくつも発生するでしょう。大雨や洪水、干ばつが増え、私たちの生活は破壊され、作物も壊滅的な状態に陥ることになるでしょう。

では、私たちはどうすればいいのでしょうか。私たちの未来は、水をどう制御するかにかかっています。私たちに必要なのは「水に関する叡智」です。私たちは、水文学や水工学の知識を適応

や回復のための知識と組み合わせていくべきなのです。

これこそが、今日私たちがここに集まった理由です。私たちにあって最大の課題の1つについて、より良い決断を重ねていくために、学び、準備を整えていきましょう。

ノーベル・プライズ・ダイアログは、ノーベル賞受賞者、国際的な専門家、学術界や社会における意思決定者、そして学生を繋ぐ場です。共に学び、互いに刺激し合い、力を合わせて行動を起こすことを目指しています。

ご存知のように、ノーベル賞はアルフレッド・ノーベルに由来する賞です。彼は、100年前にダイナマイトを発明し、一大事業帝国を築き上げたスウェーデンの企業家です。アルフレッド・ノーベルは、人々が学び、行動する努力をすれば、私たちは未来を切り開くことができる、と確信していました。この、知識に基づいた主体性の感覚が、私たちに力を与えてくれるのです。

本日は、ステージ上のパネリスト間で、また、聴衆の皆様の間で、そしてオンラインで参加して下さっている皆様の間で、豊富な知識に基づく活発な意見交換がなされることを期待しております。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 当日の開会挨拶を一部編集し、翻訳したものです。

10:00

開会

高田宮妃久子殿下

独立行政法人日本学術振興会、ノーベル・プライズ・アウトリーチ、文部科学省

「人新世における地球の水循環」

沖 大幹

「世界の分水嶺となる 2023 年国連水会議」

ヘンク・オヴィンク (V)

「防災に向けて」

今村 文彦、泉 貴子、ヘンク・オヴィンク (V)、モデレーター：竹内 佐和子

「水の生理学」

ピーター・アグレ (V)、クルト・ヴェートリッヒ、モデレーター：アダム・スミス

「水への革新的なアプローチ」

コンスタンチン・ノボセロフ、小熊 久美子、ダン・シェヒトマン、竹内 佐和子、モデレーター：藤垣 裕子

「安全・安心な水を提供するための最前線ツールとしての深紫外線 LED」

天野 浩 (V)

12:45

昼休憩

14:00

「欠乏と豊富」

モード・バーロウ (P)

「GETFLOWS による地圏水循環の可視化」

登坂 博行、モデレーター：沖 大幹

「カリフォルニアにおける水の取引」

ポール・ミルグロム (V)、モデレーター：ニューシャ・アジャミ (V)

「気候変動への取り組み」

ニューシャ・アジャミ (V)、アンティエ・ポエティウス (P)、稲垣 史生、コンスタンチン・ノボセロフ、高橋 桂子

モデレーター：アダム・スミス

15:30

休憩

15:50

「水問題と解決策、イスラエルの事例」

ダン・シェヒトマン

「生物多様性の保全」

アンティエ・ポエティウス (P)、ティム・ハント (V)、阪口 秀、ダン・シェヒトマン、モデレーター：エイムズ シェリル リン

「創造性の力」

コンスタンチン・ノボセロフ、ダン・シェヒトマン、高橋 桂子、クルト・ヴェートリッヒ、モデレーター：アダム・スミス

(P) 事前収録映像放映 (V) オンライン映像

開会

主催者開会挨拶に続いて、高円宮妃久子殿下よりお言葉をいただく栄誉を賜りました。



「人新世における地球の水循環」

沖 大幹



「世界の分水嶺となる 2023 年国連水会議」

ヘンク・オヴィンク (V)



「防災に向けて」

今村 文彦、泉 貴子、ヘンク・オヴィンク (V)
モデレーター：竹内 佐和子



「水の生理学」

ピーター・アグレ (V)、クルト・ヴェートリッヒ
モデレーター：アダム・スミス



「水への革新的なアプローチ」

コンスタンチン・ノボセロフ、小熊 久美子、ダン・シェヒトマン、竹内 佐和子、モデレーター：藤垣 裕子



「安全・安心な水を提供するための最前線ツールとしての
深紫外線 LED」

天野 浩 (V)



「欠乏と豊富」

モード・バーロウ (P)



「GETFLOWS による地圏水循環の可視化」

登坂 博行、モデレーター：沖 大幹



「カリフォルニアにおける水の取引」

ポール・ミルグロム (V)

モデレーター：ニューシャ・アジャミ (V)



「気候変動への取り組み」

ニューシャ・アジャミ (V)、
アンティエ・ポエティウス (P)、稲垣 史生、
コンスタンチン・ノボセロフ、高橋 桂子
モデレーター：アダム・スミス

「水問題と解決策、イスラエルの事例」

ダン・シェヒトマン



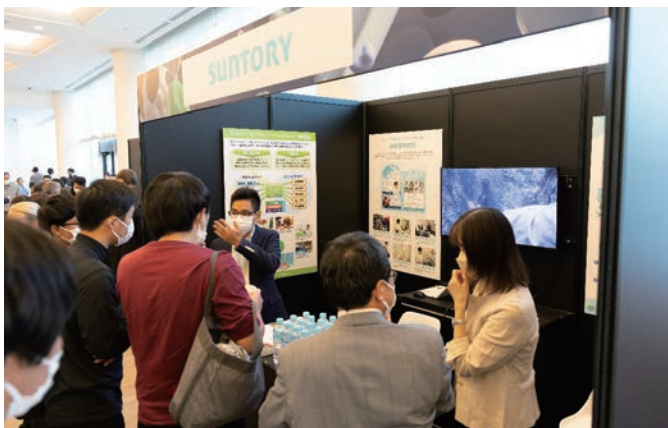


「生物多様性の保全」

アンティエ・ポエティウス (P)、ティム・ハント (V)、
阪口 秀、ダン・シェヒトマン
モデレーター：エイムズ シェリル リン

「創造性の力」

コンスタンチン・ノボセロフ、ダン・シェヒトマン、高橋 桂子、クルト・ヴェートリッヒ
モデレーター：アダム・スミス





Copyright Keith Weller_JHMI

ピーター・アグレ

2003年ノーベル化学賞

ジョーンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院のブルームバーグ特別教授及びマラリア研究所所長。自然界に存在する水チャネルの一種であるアクアポリンの発見により、2003年にノーベル化学賞を受賞。



ニューシャ・アジャミ

ローレンス・バークレー国立研究所地球環境科学分野 研究戦略開発責任者

データサイエンスの原理を用いて、都市の水と水文システムの人的及び政策的側面を研究。水、エネルギー、気候の関連性における、学際的な研究イニシアチブを推進している。



天野 浩

2014年ノーベル物理学賞

2015年10月 名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授に就任し、現在に至る。2014年、文化功労者顕彰、文化勲章受章。また、故赤崎勇博士、中村修二カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授と共に2014年ノーベル物理学賞を受賞した。



エイムズ シェリル リン

東北大学大学院農学研究科 准教授
スミソニアン博物館国立自然史博物館
リサーチコラボレーター

母国のカナダの大学を卒業、日本と米国の大学院で修士号と博士号を取得。海洋生物の理解を促進するため、分子ツールを開発し、日本及び海外の大学、博物館、水族館、漁業組合等の研究者と協力する。



モード・バーロウ

作家、元国連総会水関係上級顧問

カナダの活動家兼作家。ワシントン
を拠点とする Food and Water Watch
及びオタワを拠点とする Blue Planet
Project の議長を務める。「カナダ人
評議会」の共同創始者であり、30年
以上にわたり同評議会の議長を務め
た。



Photo by Alfred-Wegener-Institut-Kerstin Rolfes

アンティエ・ボエティウス

アルフレッド・ウェゲナー研究所ヘルムホルツ極地海洋研究センター センター長

極地・深海の研究者。アルフレッド・ウェゲナー研究所ヘルムホルツ極地海洋研究センター長であり、マックス・プランク海洋微生物学研究所深海生態学・技術グループリーダーを務める。



藤垣 裕子

東京大学大学院総合文化研究科 教授
(東京大学理事・副学長)

1990年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了(学術博士)。同年4月より東京大学助手、1996年10月科学技術庁科学技術政策研究所主任研究官、2000年4月東京大学准教授、2010年1月同教授。2021年より東京大学理事・副学長。



Photo by Carina Kircher

ティム・ハント

2001年ノーベル生理学・医学賞

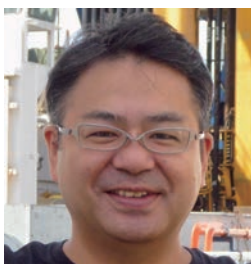
細胞周期の主要制御因子の発見により、2001年にノーベル生理学・医学賞を受賞。退職まで、王立がん研究基金(英国)にて主任研究員を務める。



今村 文彦

東北大学災害科学国際研究所 所長・教授

津波数値モデリング、防災・減災計画、教育・啓発の専門家であり、地震や津波などの被害調査のリーダーとして国内外で実施、2011年東北地方太平洋沖地震後に設置された学際的災害科学研究の拠点長。



稲垣 史生

国立研究開発法人海洋研究開発機構 研究プラットフォーム運用開発部門 マントル掘削プロモーション室・室長 / 上席研究員
東北大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻・教授

稲垣史生は、深海や海底下環境などにおける微生物生態系機能や生物地球化学的な物質循環、地圏と生命圏との相互作用を探究する地球微生物学者である。国際深海科学掘削計画(IODP)等の複数の調査プロジェクトで首席研究者を務め、国際的に分野融合研究を推進している。



泉 貴子

東北大学災害科学国際研究所 准教授
環太平洋大学協会(APRU) マルチハザードプログラムディレクター

東北大学着任以前、15年以上にわたり国際人道支援、防災、開発分野において国連人道問題調整事務所、国連アジェンダ・ニース復興調整官事務所、国連ハビタット、国連防災機関などの国連機関および国際NGOに勤務。



ポール・ミルグロム

2020年アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞

スタンフォード大学経済学科のEly人文科学教授。2020年アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞など、数多くの賞を受賞。



Photo by NUS I-FIM

コンスタンチン・ノボセロフ

2010年ノーベル物理学賞

シンガポール国立大学教授、英国マンチェスター大学教授（非常勤）。専門は物性物理学、メゾスコピック物理学、ナノテクノロジー。グラフェンに関する業績により2010年にノーベル物理学賞を受賞。



小熊 久美子

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授

2003年に東京大学で博士号（工学）を取得後、東京大学都市工学専攻助教、同専攻講師、東京大学先端科学技術研究センター准教授を経て、2019年より現職。専門は環境工学で、特に水の消毒技術、水系感染症の制御、持続可能な水供給システムの研究に従事している。



沖 大幹

東京大学 総長特別参与、教授

1964年東京生まれ。1989年東京大学大学院工学系研究科修了、1993年博士（工学、東京大学）、1994年気象予報士。1989年東京大学生産技術研究所助手、2006年より教授。2016年より国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。2020年より現職。



ヘンク・オヴィンク

オランダ王国 国際水資源問題担当特使

水担当大使として、世界各地で水に関する意識の啓発、水の国際行動の促進、水セキュリティに関する（制度的）能力の構築を担う。2023年国連水会議の共催国であるオランダ王国を代表して、同会議を主導する。



阪口 秀

公益財団法人笹川平和財団常務理事、海洋政策研究所所長

博士（農学）（京都大学）
1998-2002年 オーストラリア連邦科学技術研究機構（CSIRO）主任研究員
2002-2003年 東京大学地震研究所附属海半球観測研究センター客員教授
2018-2021年 海洋研究開発機構（JAMSTEC）理事



ダン・シェヒトマン

2011年ノーベル化学賞

テクニオンーイスラエル工科大学の特別名誉教授。ルイ・エーデルスタインセンター及び本人が率いるウォルフソンセンターにおいて研究に取り組む。準結晶の発見で2011年ノーベル化学賞を受賞。



Photo by A. Mahmoud, Nobel Prize Outreach

アダム・スミス

ノーベル・プライズ・アウトリーチ
AB チーフ・サイエンティフィック・
オフィサー

ノーベル・プライズ・アウトリーチ
による科学と社会に関する国際会議
の監修及びポッドキャストシリーズ
「ノーベル・プライズ・カンパセション」
のホストを担当している。研究
と学術出版の経験を持つ。

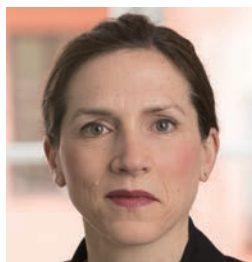


Photo by A. Mahmoud, Nobel Prize Outreach

ローラ・スプレヒマン

ノーベル・プライズ・アウトリーチ
AB CEO

デジタルメディアや国際的なイベン
トの開催を通じ、世界中の人々にノー
ベル賞受賞の理由となった業績に関
する知識を広め、関心を高めること
を目的としているノーベル・プライ
ズ・アウトリーチのCEO。



高橋 桂子

早稲田大学総合研究機構グローバル
科学知融合研究所 上級研究員・研究
院教授

東京工業大学大学院総合理工学研究
科博士後期課程修了、工学博士。花
王(株)、英国ケンブリッジ大学、国
立研究開発法人海洋研究開発機構経
営管理審議役、横浜研究所長を経て、
2021年4月より早稲田大学総合研究
機構グローバル科学知融合研究所上
級研究員、研究院教授。



竹内 佐和子

株式会社堀場製作所 取締役
東京音楽大学 客員教授

工学博士および経済学博士号を、水
の管理運営に関するモデル構築によ
り取得。フランスポンゼショセ工科
大学および東京大学工学部にて教鞭
をとる。その後、災害対応のために
国際的フレーム作りに貢献した。



登坂 博行

(株)地圏環境テクノロジー代表取締
役会長 (東京大学名誉教授)

1950年生まれ。1977年東京大学工
学系研究科資源開発工学修士課程修
了。その後、約9年間日本オイルエ
ンジニアリング(株)にて石油地質・
油層解析に従事、1986年～2016年
は東京大学工学系研究科にて油層工
学、応用地質学、地下水学、地圏水
理学の研究を行う。2000年には大学
発ベンチャー・地圏環境テクノロジー
設立。現在、(株)地圏環境テクノロジー
代表取締役会長 (東京大学名誉教授)。



Copyright Kurt Wuthrich ETH Zurich

クルト・ヴェートリッヒ

2002年ノーベル化学賞

スクリプス研究所(米国カリフォル
ニア州ラホヤ)構造生物学 教授、ス
イス連邦工科大学チューリッヒ校(ス
イス・チューリッヒ)生物物理学 教授、
上海科技大学 iHuman 研究所(中国・
上海)ディスティンゲイッシュトシ
ニアプロフェッサー。

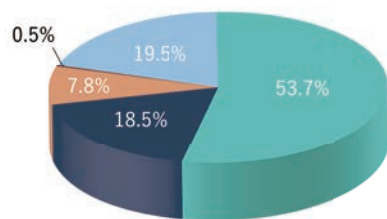
参加者データ

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 には世界各国から約 400 名が参加しました。また、会場での参加者だけでなく、多くの方がインターネット上のライブ・ストリーミングを通じてこのイベントに参加しました。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 における全ての講演、パネルディスカッションは以下の URL からご覧いただけます。

(<https://www.youtube.com/nobelprize>)

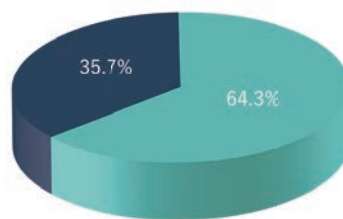
会場の参加者のうち、64.3% は日本から、35.7% は国外からの参加者であり、国際的なイベントとなりました。また、一般参加者のうち、学生あるいは大学・研究機関教職員の割合は約 58.5% でした。

参加者総数：395 名



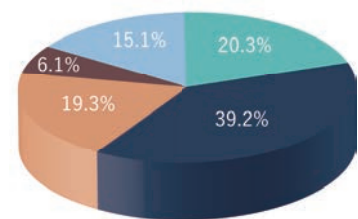
一般参加者	212 名
招待者	73 名
登壇者	31 名
報道機関	2 名
JSPS Fellows	77 名

国内外別参加者数



国内	254 名
国外	141 名

一般参加者属性

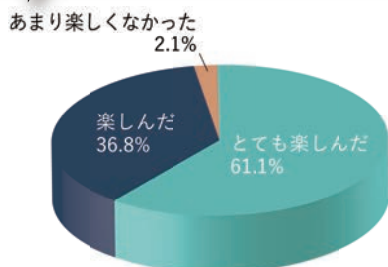


会社員・会社役員	43 名
学生	83 名
大学・研究機関教職員	41 名
公務員	13 名
その他	32 名

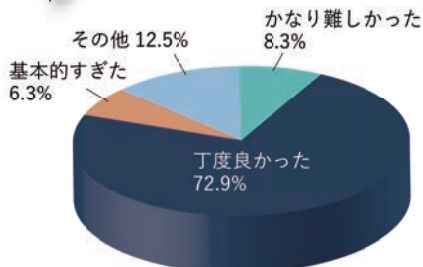
国・地域別参加者数

国・地域名	人数	国・地域名	人数	国・地域名	人数	国・地域名	人数	国・地域名	人数
オーストラリア	2	エジプト	4	イスラエル	1	ニュージーランド	3	スイス	3
バングラデシュ	10	フランス	4	イタリア	4	パキスタン	1	台湾	5
カンボジア	1	ドイツ	9	日本	254	ポーランド	3	タイ	2
カナダ	4	ガーナ	1	ケニア	1	ロシア	1	ウクライナ	2
チリ	1	ハンガリー	1	マレーシア	4	スペイン	3	英国	4
中国	25	インド	13	ネパール	1	スリランカ	3	米国	6
コロンビア	1	インドネシア	6	オランダ	1	スウェーデン	6	その他	5

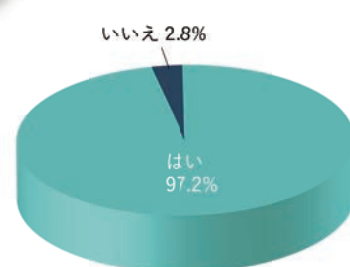
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022をお楽しみいただけましたか？



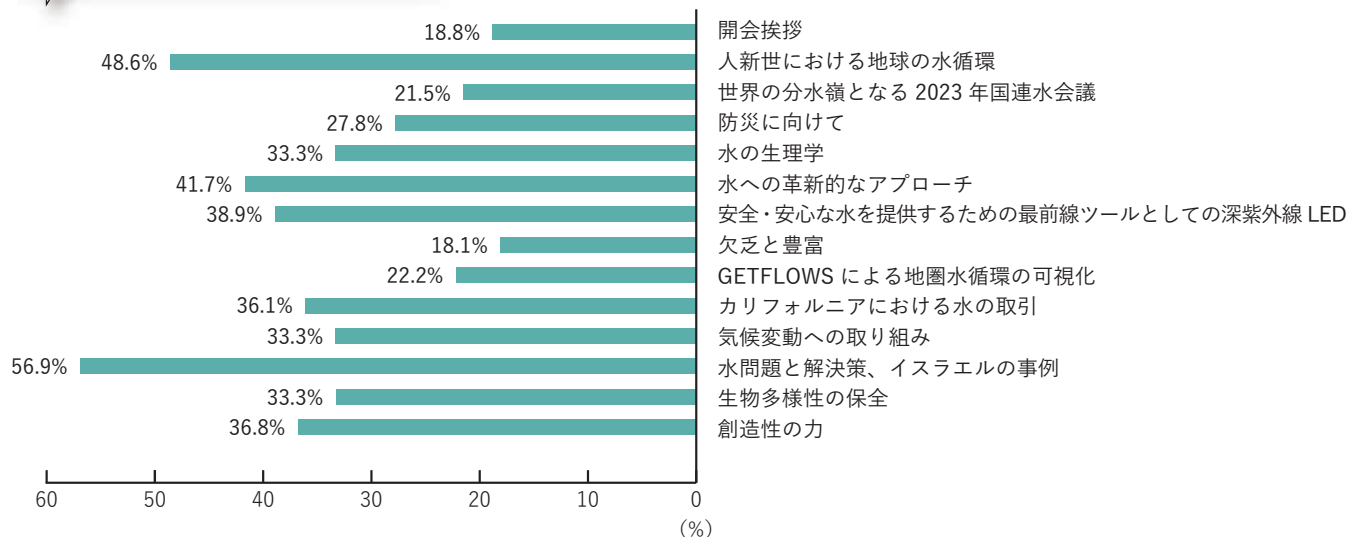
講演やパネルディスカッションなどの内容はいかがでしたか？



またノーベル・プライズ・ダイアログ東京に参加したいですか？



面白かったプログラムは何ですか？
(複数回答可)



プログラムに関するご意見

- 水に関わる幅広い内容を包括しており、印象に残る充実した内容でした。水循環や気候変動について認識を深めることができました。
- 特にシェヒトマン教授の簡潔で根本的なスピーチに感銘を受けた。
- 時間が限られていたこともあり登壇者の研究内容、専門についての概要にとどまる部分が多く、もう少し登壇者間のディスカッションが聞けたらよかったですと思いました。
- 普段TV、新聞等特集や報道番組で耳にしないご研究成果データ、知見からとてもワクワク感たっぷりの心地よいひと時を過ごす事が出来ました。

独立行政法人日本学術振興会（JSPS）

本会は、独立行政法人日本学術振興会法（平成14年12月13日法律第159号）に基づき、学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、その他学術の振興に関する事業を行うため、平成15年10月1日に設置された文部科学省所轄の独立行政法人です。

本会の前身は、天皇陛下から学術奨励のため文部大臣に下賜された150万円により、昭和7年12月に創設された財団法人日本学術振興会であり、その後、昭和42年9月に日本学術振興会法に基づき、特殊法人となりました。70年余にわたり我が国の学術振興を担う中核機関として様々な事業を展開してきましたが、平成15年10月、業務の弾力化・効率化を図り、研究者や学術研究機関へのサービスの一層の向上をめざして、独立行政法人として設置されました。

日本学術振興会は、我が国の学術振興の中核を担う機関として、科学研究費助成事業などの学術研究への助成や、特別研究員事業などの若手研究者養成を、研究者の自主性と研究の多様性を尊重しながら実施しています。また、世界に張り巡らされた学術関係機関ネットワークの主要な一員として、学術に関する国際交流の促進を積極的に行っています。

さらに近年は、大学改革を支援する事業も実施しており、学術研究の振興と人材育成のための活動を幅広く行う機関として発展を続けています。

日本学術振興会ウェブサイト <https://www.jsp.go.jp/index.html>

ノーベル・プライズ・アウトリーチ

ノーベル・プライズ・アウトリーチは、ノーベル賞を受賞した業績についての知識を社会へ広め、アルフレッド・ノーベルのビジョンや遺産に沿って科学や文学、平和に対する関心を高める活動を行っています。同社は、ノーベル賞の公式デジタルチャンネル、ノーベルプライズコンサート、さらには世界中で開催される、ノーベル賞受賞者出演の示唆に富んだ講演イベントなど、高品質な企画を提供しています。

www.nobelprize.org

Twitter: @NobelPrize

Facebook: www.facebook.com/nobelprize

Instagram: https://www.instagram.com/nobelprize_org/

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/nobelprize/>

YouTube: www.youtube.com/nobelprize

免責事項:ノーベル・プライズ・アウトリーチはノーベル賞受賞者の選考に直接的又は間接的に関与しません。選考手続はノーベル賞選考委員会によって、厳重かつ機密に取り扱われます。

© Nobel Prize Outreach 2022 Nobelpriset®, Nobel Prize®, the Nobel Prize medal はノーベル財団の登録商標です。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 運営委員会

委員長

杉野 剛 独立行政法人日本学術振興会理事長

委員

今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所 教授（所長）

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科 教授

高田 秀重 東京農工大学大学院農学研究院 教授

高橋 桂子 早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所
上級研究員・研究院教授

鳥越 皓之 大手前大学大学院比較文化研究科 研究科長

藤垣 裕子 東京大学大学院総合文化研究科 教授
(東京大学 理事・副学長)

※所属機関及び職名はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 開催日時点のものです。

ノーベル・インターナショナル・パートナー



3M はノーベル・プライズ・アウトリーチとともに、科学教育の将来性と持続可能性などの地球規模の重要な問題に何年も光を当ててきました。このパートナーシップは、世界中の人々の生活に影響を及ぼす重大な問題について、皆様とともに学び、考え、意識することのできる機会を私たちに与えるものです。



ABB は、より生産的で持続可能な未来の実現に向けて社会と産業の変革に活力を与える、世界をリードするエンジニアリング企業です。ソフトウェアをエレクトリフィケーション、ロボット、オートメーション、モーションのポートフォリオに結びつけることで、ABB はテクノロジーの限界を押し広げ、パフォーマンスを新たなレベルに引き上げます。130 年以上にわたる卓越した歴史を持つ ABB の成功は、100 カ国以上、110,000 人の才気あふれる従業員によって支えられています。



キャップジェミニは、テクノロジーの力を活用して企業ビジネスの変革・推進を支援するパートナーシップにおけるグローバルリーダーです。約 50 カ国に 30 万人以上のチームメンバーを擁しています。キャップジェミニ・グループは、テクノロジーを通して人々が持つエネルギーを解き放つことで、包摂的で持続可能な未来を目指し、日々まい進しています。また、パートナーシップを通じて、知識のグローバルな共有、国境や世代を越えた科学に従事する人々への激励、現代における最大の課題を解決することを目指しています。



EQT は、アクティブ・オーナーシップ戦略に特化した目的志向型投資組織です。北欧の伝統とグローバルな視点を背景に、EQT は約 30 年にわたり、多様な地域、セクター、戦略において、着実に魅力的なリターンを提供してきた実績を有しています。ヴァレンベリ家の起業家精神と長期的経営哲学をルーツとし、EQT の投資戦略は、事業の立ち上げから成熟期まで、あらゆる段階をカバーします。



スカニアは研究と発展に強く焦点を当て、効率的で高機能な輸送策とその革新を先導しています。スカニアがその広範にわたる対応力を維持し、自動車産業の先端の地位を保っていくために、3,500 名以上の研究者が代替燃料や接続性、自動化、電化といった未来の鍵となる分野の最前線で働いています。

特別スポンサー



私たちはお客様や社会と交す約束として「水と生きる」を掲げています。貴重な水を守り、水を育む自然環境を次世代につなぐこと。商品やサービスを通じて人々の心を潤すこと。水のように柔軟に力強く新たな価値創造に挑戦すること。これらの約束を果たすため、私たちは様々な活動に取り組んでいます。

後援：文部科学省、環境省、外務省、横浜市、スウェーデン大使館

広報活動

プレスリリース 3 件、JSPS ウェブサイト 4 件、JSPS メールマガジン 2 件、SNS(Facebook) 2 件、JSPS Researchers Network 2 件、学協会ウェブサイト等 6 件

報道実績

文教ニュース (株式会社 文教ニュース社)
令和 4 年 9 月 12 日号

文教速報 (株式会社 官庁通信社)
令和 4 年 9 月 12 日号

**日本学術振興会 10月23日開催
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京**
日本学術振興会は10月23日、ノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団広報部門）との共催により、ノーベル賞受賞者らが市民と対話する公開シンポジウム「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022」をパシフィコ横浜会議センターで開催する。午前10時から午後5時まで。2014年にノーベル物理学賞を受賞した天野浩氏をはじめ、国内外のノーベル賞受賞者や著名研究者等が「Water Matters 水から考える持続可能な未来」をテーマに、気候変動や水資源など水にまつわる様々な事柄について科学的・社会的側面から迫る。
参加は無料。特設ウェブサイト (<https://www.nobelprize.org/water-matters-tokyo-2022/ja>) に参加登録受付中。先着順。

科学新聞 (株式会社 科学新聞社)
令和 4 年 10 月 7 日号

ノーベル賞受賞者ら水テーマに未来考える

日本学術振興会(杉野副理事長)は10月23日、世界各国のノーベル賞受賞者を含む著名な研究者や有識者が社会にとって重要な問題を語り合う公開シンポジウム「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022」をノーベル財団広報部門と共同で開催する。横浜市のパシフィコ横浜会議センターを会場とした対面とオンラインのハイブリッド方式で行われる。参加費は無料(要事前登録)。参加申し込みはウェブサイト(<https://water-matters.jp/ja>)で受け付けている。
今年をテーマを「Water Matters 水から考える持続可能な未来」に、気候変動や水資源など水に関する様々な事柄について、科学的・社会的側面から議論される。
ノーベル賞受賞者のヒトラー・アクレ氏(03年化学賞)、天野浩氏(14年物理学賞)、ティム・ハ

10月23日に横浜で公開シンポジウム

令和 4 年 9 月 12 日 (月曜日)

**ノーベル・プライズ・ダイアログ東京
学術振興会が10月23日に公開シンポジウム**
日本学術振興会は、ノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団広報部門）との共催により、ノーベル賞受賞者らが市民と対話する公開シンポジウム「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022」を、10月23日(日)にパシフィコ横浜会議センターで開催する。
午前10時から午後5時予定。2014年にノーベル物理学賞を受賞した天野浩博士

をはじめ、国内外のノーベル賞受賞者や著名研究者らが「Water Matters 水から考える持続可能な未来」をテーマに、気候変動や水資源など水にまつわる様々な事柄について科学的・社会的側面から迫る。
参加無料。9月9日から、特設ウェブサイト (<https://www.nobelprize.org/water-matters-tokyo-2022/ja>) に参加登録受付中。先着順。

文教ニュース (株式会社 文教ニュース社)

令和4年11月28日号

37 第2728号 (第三種郵便物認可) 文 教 ニ ュ ー ス 令和4年11月28日 (月曜日)

日本学術振興会

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022開催

日本学術振興会(「JSPS」)はノーベル・プライズ・アウトリーチAB(ノーベル財団広報部門)と共催で10月23日、「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022」をパシフィコ横浜会議センターで開催した。



総括セッションで、高橋、ウェットリッチの各氏(左から)モデレーターのスミス、シフト、ヒトマンによる講演を行い、日本開催は初めてとなるハイブリッドでの開催に成功した。

登壇したノーベル賞受賞者は次のとおり。
○ピーター・アグレ氏(2003年ノーベル化学賞)
○天野清氏(2014年ノーベル物理学賞)

文教速報 (株式会社 官庁通信社)

令和4年11月28日号

-8- 令和4年11月28日 (月曜日) 文 教 速 報 (第三種郵便物認可) 第9197号

日本学術振興会

ノーベル・プライズ・ダイアログ

日本学術振興会はノーベル・プライズ・アウトリーチAB(ノーベル財団広報部門)と共催で、10月23日にパシフィコ横浜会議センターで開催した。

登壇したノーベル賞受賞者は次のとおり。
○ピーター・アグレ氏(2003年ノーベル化学賞)
○天野清氏(2014年ノーベル物理学賞)

最後の総括セッションでは、来日したノーベル賞受賞者高橋と高橋桂子早稲田大学総合研究機構グローバル科学知能融合研究所上級研究員・研究員が登壇し、水から考

その他
2022年10月24日 Japan Times web 発信

ポスター (A2) 日・英



チラシ (A4) 日・英



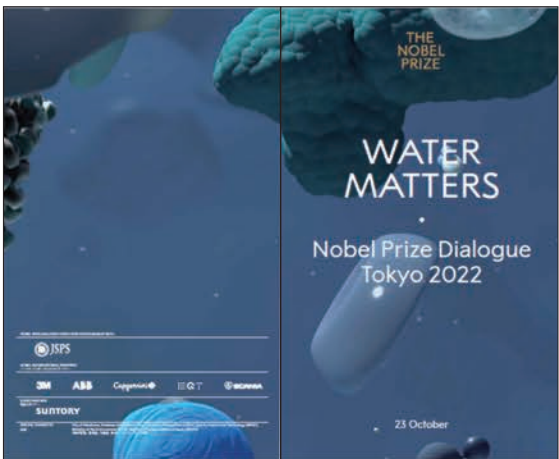
特設サイト (日・英)



JSPS ウェブサイト (日・英)



当日配布プログラム (130 × 210mm) 日英併記 16 頁



バナー (1,000 × 2,000mm)

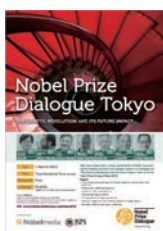


ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル・メディア AB (当時) が 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日にスウェーデンで開催している一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue (ノーベル・ウィーク・ダイアログ)」を我が国で実施しているものです。ノーベル財団側から日本での開催の可能性について打診があり、その後同財団や関係機関等との協議の結果、2015 年にスウェーデン国外では初めて、日本学術振興会及びノーベル・メディア AB の共催により実現に至りました。

2015 年開催の成功を受けて 2017 年、2018 年、2019 年と回数を重ね、5 回目を 2021 年に実施の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期。2022 年に、事前録画やオンラインによる講演を導入したり、観客数を半数にしたりする等の感染防止対策をとったうえで、5 回目のノーベル・プライズ・ダイアログ東京を開催しました。

過去の日本開催

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015



The Genetic Revolution and its Future Impact 生命科学が拓く未来

ゲノム研究の医療への応用、遺伝子組み換え食品の用途と危険性など、生命科学に関する最先端の研究成果やその社会的インパクトについて議論しました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017



The Future of Intelligence 知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～

人工知能 (AI) 技術の発展が科学や産業、医療、物流などの経済社会に及ぼす影響について、産業界や AI 研究の第一人者等が集い、意見を交わしました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018



The Future of Food 持続可能な食の未来へ

人口増加による食料限界が差し迫る中、歴史と文化の背景を踏まえながら、食の持続的発展に向けた最先端の研究の取り組みについて議論するとともに、今後の社会への影響を探りました。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2019



The Age to Come 科学が拓く明るい長寿社会

「人口高齢化を重視すべき理由」の導入講演を皮切りに、長寿社会における生き方や老化防止にかかる最先端の研究、高齢者のための最新技術などが紹介され、意見を交換しました。

商標について

本誌上に掲載している名称、表題、トレードマーク、サービスマーク及びロゴは、ノーベル財団の登録商標または未登録商標です。これには、ノーベル賞® (Nobel Prize®)、ノーベルメダル®意匠 (the Nobel Medal® design mark)、Nobelprize.org®、ノーベル・プライズ・アウトリーチ® (Nobel Prize Outreach®)、ノーベル博物館® (Nobel Museum®)、ノーベル博物館® (Nobelmuseet®)、ノーベル・ウィーク® (Nobel Week®)、ノーベル・ウィーク・ダイアログ (Nobel Week Dialogue) 及びノーベル・プライズ・ダイアログ (Nobel Prize Dialogue) (合わせて以下「ノーベル財団商標」という) が含まれますが、これらに限定されません。ノーベル財団は、これらの商標の使用許可を最も厳しく制限しています。利用者は、ノーベル財団からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、ノーベル財団商標を使用することはできません。また、本誌上には、第三者の商標を掲載することもあります。利用者は、それらの商標の所有者からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、当該商標を使用することはできません。

本誌上のいかなる記載も、ノーベル財団の商標を使用する権利または許可を明示的または黙示的に付与するものではなく、また本誌上のいかなる記載も、JSPSが第三者商標の所有者に代わって権利または許可を付与する権限を有すると解釈できるものではないことを、利用者は認識し、承認したものとします。なお、JSPSは、商標を使用する権利が有効なものであるかどうかを確認する責任も、利用者のために当該権利を保証する責任も負わないものとします。そのため、JSPSは、本誌上に掲載された情報を除き、住所、電話番号及びその他の連絡先を、商標使用の権利を有する第三者には提供しません。

著作権について

本誌上に掲載された論文、写真、画像、図表、デザイン及び文書等の全部または一部 (以下「本コンテンツ」という) はすべて、ノーベル・プライズ・アウトリーチABまたはJSPSの所有物、または法令もしくは第三者の同意に基づいて使用しているものです。

利用者は、JSPSからの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、本コンテンツの複製、頒布、表示、送信、改変、上演、翻案、もしくは本コンテンツの派生著作物を作成すること、またはその他の方法で使用することはできません。

